

2014 年 7 月 11 日

防衛省南関東防衛局

局長 丸井 博 様

厚木基地爆音防止期成同盟

委員長 大波 修二

第四次厚木爆音訴訟原告団

団 長 藤 田 榮 治

原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

代 表 二見 昇

神奈川平和運動センター

代 表 福田 護

オスプレイ飛来計画に抗議し厚木基地への飛来を即時中止するよう申し入れます

9 日、夕方米軍からの情報として、厚木基地への MV22 オスプレイの飛来の可能性があるという一報が、貴職より周辺自治体に入りました。迅速な情報伝達にまずは感謝したいと思います。

一方で、伝達を受けた神奈川県はじめ周辺自治体は一斉に反発しているのも事実です。

わたしたちも安全性に問題のあるオスプレイの飛来計画に強く抗議し、中止することを訴えます。

オスプレイは開発段階から事故を繰り返しており、アメリカの国防分析研究所の試験・評価部長も、その安全性に問題があるという証言を米議会で行っています。それは、オートローテーション機能が使えないことです。

2013 年 12 月 16 日、三浦市に米軍のヘリコプター MH60S が不時着横転した事件は、まだ記憶に新しいことです。MH60S はトラブルに陥りオートローテーション機能を使って着地しましたが、それでも乗員が負傷し機体は大破しています。もしこれが、オスプレイであったとしたら、乗員の命にも関わり、また空き地に着地することもできず、周辺住民をも巻き添えにする大事故になったことは想像に難くありません。

また、オスプレイの配備に当たっては、飛行の安全を図るための合意が交わされましたが、沖縄県のまとめでは、その合意に違反する飛行が全体の 6 割を超えているとのことでした。防衛省は違反の事実を確認できなかったとしています。現在でも違反飛行の目撃情報が寄せられており、住民の不安をかき立てています。

2014 年 5 月 21 日に、厚木基地第四次爆音訴訟の判決がありましたが、その判決の中でも、航空機事故に対する不安などの精神的苦痛が、住民の生活の質を損なわせている一つの要因だと認めています。米軍機の飛行差し止めこそ認められませんでした。この判決が、住民の健康を顧みない基地行政に対して、あらためて強い警告を発したものだと思います。

現在、空母艦載機だけでも深刻な被害を受けています。これ以上の事故不安や騒音を周辺に振りまくことは認められません。

そのような生活環境を無視し、オスプレイの飛来の計画を立てていることに強く抗議します。そしてオスプレイの厚木基地への飛来を中止することを米軍に申し入れるよう重ねて訴えます。